

第5回自動車教習所パワーアップセミナー報告

前半：ヨーロッパの交通安全に学ぶ

1日目

トップは交通評論家の矢橋昇氏。ヨーロッパの視察報告から、スイスでは免許を取って3年以内に丸2日間、安全運転などの受講が義務づけられていること、ドイツ・スイスでは至るところにGIVE WAY (非優先) の表示があり、ゆずり合いが交通ルールの基本になっていることを紹介され、「ヨーロッパは交通社会が成熟しており、自転車や歩行者も含め、交通ルールが身に付いている。それに対し日本は交通安全意識が薄い」と指摘。

「交通ルールとは安全と円滑な道路利用のための約束事。他人への迷惑を避け、失敗を起こしにくくするもの」「教習所が教えるべきは、危険に合わない・安全を作り出せる運転」「事故回避を教える前に、事故を寄せつけない運転を教えること」など、含蓄の深い話が続き、最後は、「日本はドライバーの再教育が足りない。これは教習所の新しいビジネスチャンスになる」と締めくくられました。



後半第1会場：ロサンゼルススのトラフィックスクールに学ぶ

1日目

東播自動車教習所/豊岡自動車教習所の山口社長による講演。矢橋先生のヨーロッパ事情に対し、山口社長はロサンゼルススの交通事情を紹介。「ロサンゼルススの取締りはきついが、トラフィックスクールで講習を受けると減点が軽減されるため、既得免許者が自分から講習を希望してくる」「既得免許者の教育を系統的にやるには国の制度が必要。日本でもこのような制度を作り、指定校をトラフィックスクール化したらどうか。そのためには、指定校の安全講習は効果があると言われるよう実績を積んでいくべき。教習所の次世代のためにもトラフィックスクール化を推進しよう」という新しい観点から、教習所の進むべき道を示唆。次世代のために教習所の新しい姿を考えようという言葉は大変説得力がありました。最後に学科教習のあり方について触れられ、本免の合格率の話で会場はさらに盛り上がりしました。



午前：インストラクションレコーダーを使った指導員育成

2日目

能力開発工学センターの矢口哲郎氏は、インストラクションレコーダーを使った指導員育成について講演されました。指導の向上・統一には指導員ひとりひとりが質を向上させようという意欲を持ち、教習所全体がそれを実現させようという方向性を強く持たなければならない、と言う言葉が印象的でした。詳しくは、中面の「連載・指導の統一」でご紹介しています。

午後：常識にとられない「科学的経営」が、企業成長のカギ

2日目

午後はオール日本スーパーマーケット協会会長・荒井伸也氏の科学的経営。ホーソン工場の実験が覆した「常識」

この実験では、はじめ照明を段々明るくしてゆくと、女工さん達の仕事の効率は上がっていった。しかしその後暗くしていても「常識」に反して効率は上がり続けた。これは女工さん達の間に「がんばろう」という連帯意識が生まれ、「やる気」が喚起された結果であった。

行動科学が否定した「常識」

- ①上司の命令で部下が動くとは限らない。→嫌いななら面従腹背ということも。
- ②社員は仕事が嫌いとは限らない。→人間は仕事好きの面もある。
- ③人間は自分で考え判断する。看護師は医者が言う前にメスを用意している。
- ④人間は本来、向上意欲を持っている。→ゴルフは難しいからこそ夢中になる。人を育てるのに「アメとムチ」が必要という「常識」は家畜を飼う知恵である。企業の組織に於ける命令・服従・懲罰などは、世界初の株式会社「東インド会社」（軍隊が作った会社）の流れを汲むもの。人間を歯車として、個性を認めない。いわば「ヤクザ」の考え方に基づいた経営と言える。

「常識」にとられない人の見方、人の使い方

それに対しサミットストアの経営は企業の「目的」や「使命」を明確にし、オープンにし、社員がこれを共有できるようにした。その上で社員能力の開発に取り組み、ひとりひとりの役割を明確にした。毎年自分のやりたいことを年初に決め、これを3ヶ月、半年とチェックしてゆく。全社的目標+自分の目標を掲げて仕事をする。

基本的には性善説に基づいた経営が、企業も人も成長させる。

そして、「業績改善」の前に「待遇改善」こそが大切である。

後半第2会場：効果的な社員マナー研修「実践編」

1日目

アィムの長井和子氏によるマナー研修では、インストラクションレコーダーを使った映像を見ながら、「悪い指導と良い指導の例」を視覚的に具体的に解説。会場からは「第三者の目で自分の教習を振り返るきっかけになるのでは」「教習生の立場に立って教習を見ることができた」などなどの感想が聞かれました。またフロントのロールプレイでは若い女性スタッフにありがちな「茶髪」や「派手すぎるマニキュア」などを注意するのに苦戦する上司に、会場から苦笑が漏れていました。さらに朝礼や社員同士のディスカッションを通じて「マナーの悪い指導員を一掃する法」や「マナー問題集を使った手軽にできる研修など、実践的なアイデアが盛りだくさん。弊社の社員の熱演ぶりにも、盛んな拍手が送られていました。



総額¥50,000の商品券が当たった懇親会と屋形船クルージング

1日目

講演終了後はお楽しみの懇親会。轟会（コヤマドライビングスクールの長期研修生）によるテーブル対抗交通〇×クイズは、なかなかの難問揃い。テーブルごとにクイズに関する熱いトークが繰り広げられましたが、全問正解は1チームのみ。優勝チームの全員に¥5,000の商品券、2位には、東京名物・虎屋のようかんが贈られました。懇親会終了後、今回新たに希望者を屋形船クルージングにお連れしました。天候にも恵まれ、大変気持ちがよかったと好評でした。また最終日には参加者全員の中から抽選で1名に、今大人気の体感ゲーム・任天堂Wiiが贈られました。



厳しい状況下に勝ち残るには？ 答えが見えたセミナーでした

松戸東自動車学校 専務取締役 生繁 伸明

まずは海外事情。日本では教習所に入ってから交通法規などを教わるのに対し、外国では歩行者（自転車）も、標識や交通ルールの教育を受けているとのこと。日本は交通安全に対する意識が薄く、経済大国でも、交通安全に関しては遅れていると聞き、ちょっと意外でした。外国の例を知り、「教習所の使命の再認識」と「時代のニーズに合った経営」の重要性を実感。

今回の参加が無駄にならないよう、一教習所として、安全運転ドライバー育成のために今後の教習に活かさなければと思いました。

一方、「人を生かす科学的経営」「立地産業で一番手になるには？」さらには指導法の統一から実践的マナー研修まで、実に盛り沢山の二日間。経営の見通しが、少しついた気がしたセミナーでした。

